



2024.6.1 Saturday

社会福祉法人光仁会富竹の里



## 特養 家族会 4年ぶり対面開催

今回の家族会は、特別養護老人ホームという「終の棲家で、どう生きるか」をテーマに企画。利用者の平均年齢は90歳。発熱、嘔吐、誤嚥（窒息）、肺炎等で亡くなったり、看取りとなるケースも多い。そんな利用者の体のこと、老衰にどう向き合うかなどについて、嘱託医の田中先生より、ご講演をいただいた。続いて、施設からは、ACPの推進や看取り介護についての実践を紹介。

今回の家族会は、より豊かな質の高い人生に向けて、家族と一緒に考えて、感染症で止まっていた“トキ”や“コト”を戻したい。家族との時間を一日でも多く大切にしたい。そんな思いと願いが込められていた。

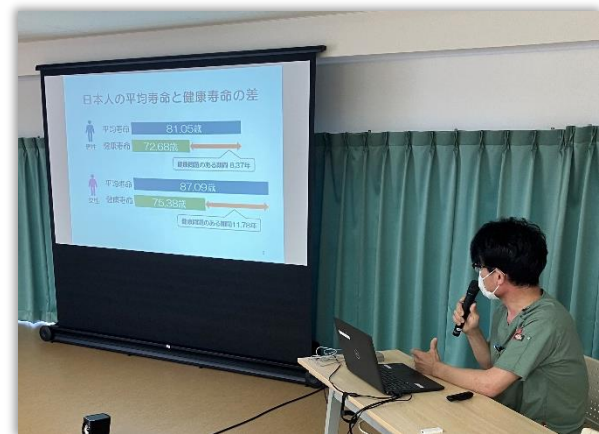
## 苦痛がなければ病気に“あらがわれない”

「特養で、終の棲家としてよりよく生きるために」と題して講演した田中先生は冒頭で、平均寿命と平均余命の違いを具体的な数字で説明。

「特養は介護が必要な中で穏やかに余命を過ごす場所」と述べた。続いて、救急搬送に至った疾病に触れ、主に誤嚥性肺炎、腎盂腎炎、誤嚥・窒息であり、誤嚥性肺炎が飛びぬけて多いことを報告。また、窒息について、「職員は気を付けて支援しているが、様々な機能低下が複合的に関与しており、防ぐことが難しい」と説明した。

また、21年からの退所者66名の死亡場所と原因、入院日数等をまとめた表を示し、回復せず、看取りで施設に戻る方が多くなってきていることに触れ、終の棲家で暮らす利用者にとって「意味のある必要な入院であったのだろうか、苦痛がなければ病気にあらがわれない」と施設での緩和的処置についても言及した。

その上で、参加者に対しては、「誤嚥性肺炎になったり、食べられなくなったらどうしますか」と問い、本人の意思や価値観が最優先に尊重されるACP（アドバンス・ケア・プランニング）の実施、本人に代わって意思決断できるよう、平均余命を意識し、最期に向けた準備をすることの大切さを呼びかけた。



## 穏やかな最期がゴール

## 2023年度の事業報告 アニュアルレポート 公開

ご家族や地域住民らに法人の事業活動を知ってもらうことを目的に2018年度から「アニュアルレポート」を作成。2023年度版をホームページに公開した。

本レポートでは、経営状況や運営報告に加え、看取り介護の発信も重要なポイントとしており、今回の家族会で実践発表した2014年から、施設で100人を看取った苦悩と葛藤、コロナ禍前に家族と取り組んだACPの推進、家族が3週間泊まり込んで看取ったエピソードなどをまとめた15分間の動画もYouTubeから視聴できる。看取りの詳細を積極的に発信することで、入所する前から利用者本人や家族の人生設計を考えるきっかけづくりにしてもらいたい。

ホームページアドレス (URL) <http://tomitake-carenet.com>



HP

動画

Disclosure  
情報開示ANNUAL  
REPORT  
2023

アニュアルレポート